し、あしおとどもしてくづれ出るを、うへの御つぼねのひんがしおもてに、みゝをとなへてきくに、去る人のなのりには、ふとむねつぶるらんかし、又ありともよくきかぬ人をも、此をりにきゝつけたらんは、いかゞおぼゆらん、なのりのよしあし、きゝにくゝさだむるもをかし、

〔花鳥餘情三夕顏〕なだいめんはすぎぬらん、たき口のとのゐ申はいまこそは、亥一刻に、内豎、時のふだを奏す、其後侍臣のなだいめん有、なだいめんとは名謁をいふ、殿上に御とのゐせる侍臣、たがひに名を問れて、なのる事也、此次に瀧口のとのゐ申あり、とのゐ申といふも名謁と同じ事也、

〔神皇正統記仁明〕第五十四代第三十世、仁明天皇、諱は正良、是より先御諱たしかならず、多は乳母の姓などを諱に用ひられき、是より二字たゞしくましませば、のせたてまつる、

〔古事談三僧行〕文範卿云、餘慶僧正ヲ驗者ト云ヘドモ、被犯人妻云々、僧正聞此事ノ後、向彼卿宅之處、得其意、稱所勞不出合、僧正猶大切ニ可申事有ト被申ケレドモ猶不出會、其時僧正呪而只投出ト被申ケルニ、主忽悶絶シテ屏風ノ上ヲ打越テ傾出、僧正サコソハトテ被歸畢、三ケ日猶悶絶ス、因之一門子息等獻二字於僧正、仍被免、後存命云々、

〔蔭涼軒日錄〕長享二年正月晦日、陳外郎話云、大内息次郎相公、賜二字、義興、義字賜者、世所稀也云々、

〔類聚名物考姓氏八〕片名　かたな

二字ある名の一字を片名といふ、今俗に左衞門といふを、左衞とも、或は衞門とも書をも、また片名といふ也、

〔源平盛衰記三十三〕太神宮勅使附緒方三郎責平家事

日數積ツテ月滿ヌ、花御本男子ヲ生、隨爲成長容顏モユヽシク心樣モ猛カリケリ、母方ノ祖父ガ片名ヲ取テ是ヲ大太童ト呼、